

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	北名古屋市のひとり親家庭、生活困窮家庭支援事業
資金分配団体名:	一般社団法人全国フードバンク推進協議会
実行団体名:	特定非営利活動法人フードバンク愛知
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	愛知県
事業対象者:	ひとり親家庭、生活困窮家庭

Version 3.0
日付: 2022年3月14日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>困窮するひとり親家庭への食料品・日用品支援。収入格差が子どもの教育機会の格差となり、世代間貧困連鎖を配布支援により生活費用の助け、家庭内の困りごとをいち早く気づき行政と連携し、支援につなげることの活動事業を子ども食堂、子ども支援をする子ども食堂、北名古屋市役所など行政を支援を通じて、誰も取り残さない地域共生社会をつくります。自律的かつ持続的な仕組みづくりを行う。それにより、こども食堂のインフラ化が進み、直接的にサービスを受取る子や家庭、高齢者等に変化がもたらされることはもちろん、当団体がつながる愛知県の地域ネットワーク団体へも波及効果を生み出し、広く変化が表れるようにする。</p> <p>こども食堂に対しては、必要な情報、支援が届くようになり、また、地域レベルでは、事業者連携や行政連携が進み、包括的な課題へのアプローチが行えるようになる。さらには、こども食堂への地域理解が進み、活動を始めやすく、また継続しやすい状態を実現する。その結果、地域レベルでの質量が拡充し、支援の輪が拡大する。課題提言団体から課題解決団体への転換を目指す。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>北名古屋市初めての行政（北名古屋市）と市民団体4団体との同時食料配布を行った結果、予想以上の行政の職員、子ども食堂スタッフの参加があった。行政職員、市民はこの様な活動を待っていたかのように、参加し活動に加わった。新型コロナの影響の長期化、2度の緊急事態宣言に伴い、予想を超えた食料を求める人たちが多く、また、回を重ねるごとに、車の無い対象者を対象者が同伴するなど、この活動により多くの方たちとの広がり多さに驚いた。初めに参加した市民団体である子ども食堂は我々が集めた食ロス食材が充実せず。この活動から辞退し、新たな子ども食堂の参加して頂き活動を継続した。地域により貧困層でない地域のある。本来は食ロスを消化する活動で始めた、自分たちで選んだ食糧品ではない物をこれほどまでに多くの人々が求める事は、社会の緊急事態と感じた。まだまだ、多くの方たちが我々との繋がりを求める。これらのパイプ・情報を持つ団体との連携等の仕掛けが必要と認識した。また、行政の参加により市の環境課、防災課など参画があった。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
ひとり親	食料関連の不足	新型コロナの影響により収入が減り食費が確保できなくなっていたが、食糧が確保できるようになる	食料を渡す回数	食糧支援 延べ9回 毎月1回	目標の3500件に対して、延べ5,820件 38,412kgの食料品配布ができました。	多くのニーズが寄せられる中で、想定を超えての受け入れを実施することができ、食料支援先としての成果を果たすことができた。一方で、一名あたりの支援kg数は想定より多く、より多くの成果が望めたのではないかと考察する。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>今後、継続的に行政及び参加頂ける市民団体に食料を提供し、繋がりを作る「場」の整備を進めていきたい。市民団体の自発的な活動の継続</p>
考察等	<p>①利用者に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣の配布場所情報が少なく、自分の引き取り先を見つけることが困難 実際の雰囲気分らず行きづらい 自分に合う場所かどうか分からない <p>②開催場所である子ども食堂/行政配布に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規参入のハードルが高い・活動継続の負荷が高い 人員、資金、場所、食材の確保に必要な知識、情報が不足している 開催案内等の告知力が弱い 開催場所同士のコミュニティが無いため手探りの独自運営となる 団体間の情報格差がある <p>③自団体に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーの連携不足 広域的、多面的な支援が不十分である 持続可能な活動基盤の構築 社会や企業からの支援に依存せず、SNSネットワークによる付加価値の提供により持続可能な活動基盤の構築に努める必要がある

V. 活動

活動	進捗	概要
SDGsを掲げる企業へのアプローチを続け、コロナ禍によるリポート営業を拡大する。	ほぼ計画通り	
行政との連携を始めその情報を元に北名古屋市庁舎など行政施設に食料配布を行う。また、困窮支援団体への食料配布を開始する。団体の募集に対しては当団体のFBを利用する。	計画通り	
これから増える主食となる食品については困窮と思われる、団体と我々の施設、行政の施設を利用し直接募集を開始する。	計画通り	
市町村区社協及び行政との連携を推める	計画通り	
東海3県を含めた、子ども食堂やパントリー団体、福祉施設等の団体登録を進める	計画通り	

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	市行政の横ぐしの様に、連携が繋がる効果により市が自ら中間支援を行う体制が始められる
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	本事業にてつながりが出来た持続可能な仕組みづくりは、「人・物・資金」の確保とリーダーとなりうる人材育成を考える。これからの企業は、環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）要素も考慮した投資が活発になっています。特に、投資にESGを組み入れる関連責任投資原則（PRI）に、日本の年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が2015年に署名したことを受け、資金・物資の確保ができるようになりました。この資金獲得手法は母体であるフードバンクで実証済みです。人材については、愛知県はトヨタグループを始め沢山の企業のプロボノ活動、労働組合のOBなどの社会的参加も期待されます。弊団体が愛知県での社会的インパクトの高いプレゼンスを示す、プラットフォームの構築で参加者の確保が容易になります。事業終了後には、組織的にこの活動を続けていきます。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
一般社団法人全国フードバンク推進協議会	活動支援のアドバイス、食料品など支援を頂く
愛知県社会福祉協議会	子どもの居場所委員への選出
愛知県地域福祉課、国際課	受益対象者名簿など情報共有

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

事業費	直接事業費 管理的経費	計画額	実績額	執行率
		4,181,940	4,181,940	100.0%
	0	0	#DIV/0!	
合計		4,181,940	4,181,940	100.0%
補足説明	特になし			

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	北名古屋市民タイムズ毎月掲載、中日新聞2021年6月12日掲載（ https://www.chunichi.co.jp/article/271334 ）
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	チラシを作成し、別紙添付のとおり、貼り付けています。
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	ホームページ及びチラシに記載いたしました。
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. 事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されましたか。		当初は、定款だけでしたが、2年半ほどだったので、規定類は全部できました。
6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。（実施予定の場合含む）（複数選択可）	内部監査	

XII. その他

自由記述
今回は大変拙い、弊団体を伴走いただき感謝しています。まだまだ、未熟な団体ですがこれからも宜しくお願いします。